海外新報

●十二指腸蟲子蟲ノ皮膚ヲ貫通シテ進入スルコトニ就テ

Deutsche med. Wochenschr. 1904. Nr. 50. S. 1848.

Lambinet in Lüttich. 述

在岡山 大前信三 譯

Loos ニ據リ屢唱導セラル如ク十二指腸蟲ノ皮下ニ其經路ヲ索メテ傳搬シ得ル事實ハ、新シキ試驗ニ據リテ確實ナリト證明セラルル程ノ一大要點ナリ。

Schandern (Deutsche. med. Wochenschr. 8. Septemb. 1904) ハ猿ノ皮膚上ニ十二指腸蟲ノ子蟲ヲ置クニ由リ傳搬セラレ得ルコトヲ證明セリ。

吾人ハ次ノ試驗ニ據リ此結果ヲ確證シ能フヘシト信ス、兎モ角此試驗ハ只一回舉行セラレシニ過キスト雖モ如斯注意ノ下ニ於テハ斷乎トシテ殆ント夫ヲ確定シ得ルナルヘシ。

吾人ハ犬ノ十二指腸蟲ヨリ集メタル子蟲ノ一培養基ニ注目セリ、其ハ教授 Loos 自ラ大ナル好意ヲ以テ、Malvos 君ニ其管理ヲ爲サシメタルモノナリ。

吾人ハ通常ノ方法ニ從テ犬ニ傳搬セシメ而シテ二十六度ニ於テ囊裡子蟲ノ善良ナル發育ヲ爲サシムルタメ

Loos 氏法ニ據リテ腸管ヲ空虛ニセシメタリ。子蟲ハ數回稀薄ナル「フエノザリール」ニテ洗滌セラル。試験ニ供セル量ハ子蟲ニ對シテ有害ナラザルノミナラス、實ニ又培養基内ニ於テ胚芽ヨリノ發育ハ妨害セラレザリキ。此ノタメ敗血病的ノ合併症ハ避クルコトヲ得タリ。傳搬シタル子蟲ハ活潑ニ且ツ可動性ナリキ。

Loos 氏法ニ從テ皮膚ノ表面上ニ播布スル代リニ吾人ハ生後二箇月ノ犬ノ皮下ニブラワツツノ注射器ヲ以テ其小ナルモノヲ注射セリ。吾人ハ是ニヨリ誤法ヲ避ケ得タリ。即チ實ニ人人ノ考フ如ク犬ハ皮膚面上ニ於ケル子蟲ヲ甜メ去ル憂ヒアレバナリ。

注射ハ腹膜下ニ行ハレタリ。液ハ百ヨリモ以上ノ子蟲數ヲ含有セリ。傳搬セラレタル部分ハ無水亞爾箇保爾ニテ洗滌セラレタリ。

吾人ハ局處ニ於テ一ツノ炎症症狀ヲモ認メザリキ。

動物ハ其後十二日ニシテ死セリ。小腸殊ニ其中央區域(十二指腸ニ非ス)ニ於テ長サ八乃至九密米ナル幼キ十二指腸蟲ヲ數百含有セリ。粘膜ハ多量ノ血性粘液ニテ被覆セラレ且ツ數多ノ新鮮ナル血液滲漏ヲ示セリ。十二指腸蟲ハ腸ノ開放後尙ホ二時間モ運動性ヲ有シヌ。

此小犬等ハ未タ嘗テ十二指腸蟲ノ傳搬セル犬ヲ一疋タモ入レシコトナキ小屋ニ繫カレタリシナリ。然レトモ人ガ腸管ニ於テ發見セル十二指腸蟲ノ刺貫ニヨリ發育階級ニ達セルナラン、斯クシテ此可能ナルコトハ決定セリ。即チ自然ノ經路ニ代リテモ傳搬ハ見ラルルモノナリ。終リノ例ニ於テハ、子蟲ノ數ハ確ニ餘リ少ナカリキ、且ツ是等ハ何時モ凡テ自ラ發育時期ニテハアラザリシナリ。

(完)

●十二指腸蟲子蟲ノ皮膚ヲ貫通シテ進入スルコトニ就テ